エコレンジャーの一員になろう！
目に見える効果で児童の意欲も向上！

毎年1つずつエコ活動を追加、節電・節水・ごみ・エコキャップとテーマを増やし、キャラクターを利用して楽しく取組んでいる。続けることで日常生活習慣として身に付くことに。

はじまり 節電とごみの有効化対策からエコ活動がスタート

最初は学校をあげて「節電しよう」と思い立ったのが始まりで、札幌市の「ごみの有効化」なども本格的な活動のきっかけにしていた。

内容 オリジナルキャラクターで各種エコ活動を啓発

平成20年度より1つずつ取組を増やし、様々なエコ活動にチャレンジしている。平成21年度は節電をメインに「エコレンジャーくなろう」、平成22年度は「エコキャップ回収活動」を始めた。取組ごとに独自のキャラクター「地球のエコを守る戦士たち」（教師が担当）を設け、児童たちに「エコレンジャーの一員になろう」と呼びかけている。

1 節電

教室を暗めることは必ず電気を消さず、電気の無駄使いをしないように心がけることが目標。「けしたりーさん」「けしたりくん」「けしたりちゃん」「けしたりー」「けしたりくん」の5種類のキャラクターを設定し、スイッチの周期にキャラクターのステッカーを貼っている。

2 節水

水道副から公式キャラクター「うおっしおり」を借り、水飲み場などを口のあごにキャラクターのステッカーを貼り、節水の啓発をしている。

3 ゴミ箱ダイエット

クラスのごみ箱をさみやの持ちやみに密着設定ににおいて、ごみ箱を減少させることで、ごみの量を減らすことを身に付ける取組。ごみ箱の種類は最初に3種類のものを配り、ごみ箱の減量に成功すると「もう2箱ごみ箱（10L）」「もう2箱ごみ箱（12L）」「もう1箱ごみ箱（6L）」と小箱袋が増やされる。

ごみ箱の昇格判定は担当の教員が行う。昇格の間隔、実状が把握できるものであり、児童たちは効果的にごみ減量のアイデアを出し合い、クラスで一つとなってごみの減量に取り組んでいる。キャラクターは、「エコレンジャーのごみ減量・サイクル担当」「うおっしおり」。

4 エコキャップ回収

各クラスに配置したエコキャップ回収用のごみ箱1箱（約800個入れるもの）で、ワークション1本が1組を務め、「かんたんにエコキャップストラップの落ちたものが無くなる」というキャップマンカードで集める。キャップマンは教師の指導のもとで、最近は児童のデザインも採用、キャラクターをかざした目はかわいい、児童たちの励みになっている。

功效 ゴミ箱ダイエットで最優秀賞受賞

ごみ箱内のごみ量は、資源化ごみ量の3分の1まで減少した。全12学級中112箱（10L）2箱（12L）1箱（6L）が10学級、12箱（10L）4箱（12L）が5学級、5箱（6L）が3学級にごみが減少していることがわかり、児童たちのエコに対する意識が高まっている。

この取組は3年間にわたって推進、健常で行うことができるので、エコ活動が日常生活習慣として身に付いている。

課題 クラス単位で児童たちの意志統一が重要

エコキャップ用のストラップは、給食の牛乳バックにセットし、児童たちの手元に座っている。クラス単位での、児童たちの足元を抑え、振り向けたキャラクターを増やす方法で、時間もかかるが、児童たちのアイデアも活かし、現状の取組を発展させながら推進していきたいと考えている。

また、エコキャップに加え、リングプル回収についても環境委員会が集中努めて設けて、回収促進のキャンペーンなどを行っている。

広報 つなげよう環境学習の輪

様々なエコ活動の場面や労働の場面でも、地域のつながりを大切に。また、本校に住む児童のみならず、地域のつながりは大切に。地域のラジオ・ネットワークなどから活動が始まるのがだろうと。

実施校からメッセージ

様々なエコ活動の場面や労働の場面でも、地域のつながりを大切に。また、本校に住む児童のみならず、地域のつながりは大切に。地域のラジオ・ネットワークなどから活動が始まると始まるのがだろうと。